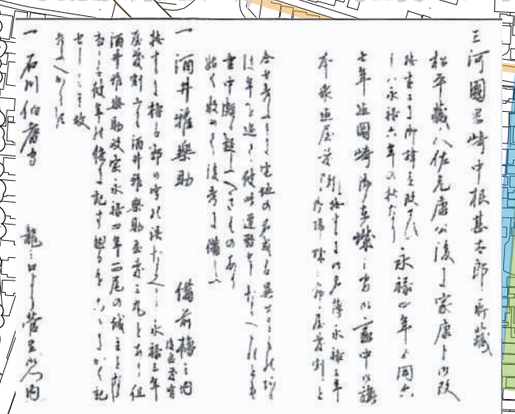
岡崎城下東海道二十七曲り

惣構内（そうがまえない）

家康公岡崎在城時の様子
「永禄四年⁄六七年迄岡崎御在城之間御家中御旗本衆迄屋敷附」（中根甚太郎家文書収）
・江戸期の後半にその時の地名等で、家康公在城期の家臣団の屋敷位置を記したもの。信憑性は高い。
・近世の城内に20名、惣構え内を含めて56名の上・中級家臣たちが在住していた。

安城市宇頭茶屋付近にあった

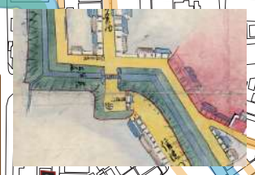


これよりひがしおかざきりょう

主な家臣の屋敷推定場所

備前郭内	酒井政家			
菅生御門前	酒井忠次	石川数正		
黒御門内	鳥居元忠	石川家成	大須賀康高	本多忠勝
三の丸	松平与市			
中之馬場	植村家政	服部正成		
天王社東	大久保忠世			
ふきぬき筋	（連尺町南）	榊原清政	康政	
大林寺東	内藤正成			
大林寺下	内藤家長			

田中吉政　岡崎城主（1590～1600）
当時曽生川の南にあった東海道を城下へ引き入れ「岡崎二十七曲り」の基礎を造り，また惣堀（田中堀）を築造するなど、城下町の整備をおこなった。



おもてなしごころ
勅使（暮府の使い）
宮中関係
お茶壷道中　御一行様
朝鮮通信使

[1] 付櫓
[2] 井戸櫓
[3] 辰巳櫓
[4] 二階櫓
[5] 月見櫓
[6] 桃燈櫓
[7] 隅櫓
[8] 矩折櫓
[9] 挙母櫓
[10] 護摩櫓
[11] 東隅櫓
[12] 菅生櫓
[13] 西櫓
[14] 東櫓
[15] 北櫓
[16] 南櫓

107